

## ゴム風船

デパートの売場で子供がゴム風船をもらってはしゃいでいる姿をよく見かけます。そもそもゴム風船とはどのような姿をして日本に登場し、現在のような人気のある玩具になったのか、また、空へ飛んで行ったゴム風船はその後どのようなになるのか、興味がわきましたので、調べてみました。

古くは動物の腸や膀胱などを膨らませたのが風船の起源であると伝えられています。明治元年もしくはその少々前、横浜で中国の商人が、あるいは、大阪で英国人が膨らませたゴム風船を売ったのが最初のゴム風船の登場のようで、その材質は天然ゴムです。しかし、当時のゴム風船は、現在の製法とは異なるため、それほど膨らむものではなかったと言われています。明治中頃から終わりにかけて、水分を含んだラテックスが開発され、息を吹き込んで膨らませることができる、やわらかいゴム風船が造られるようになりました。このゴム風船に可燃性ガスである、水素ガスを注入したものが販売されていたようです(Balloon Story, <http://www.e-bap.com/history.htm>)。主な用途は戦勝祝い用品で、非常に高価であり、とても子供達が手に入れるものではなかったという記述があります。余談ですが、この頃、高浜虚子がゴム風船を俳句の春の季語としたことも興味深いことです。冬のゴム風船は情緒に欠けるし、夏では水素ガスの安全性に問題があるため、この季節にはあまり出回らなかったということで春の季語になったらしいと見られています。

第二次世界大戦終了後、大きなゴム風船工場が多数できました。そのお陰でゴム風船の値段も下がり、ようやく子供達の間にも広まっていきました。さらに、昭和37年には神戸市の火災防止条例により、水素ガスを注入したゴム風船の販売が禁止された後、不燃性のヘリウムガスを入れるようになったとのこと(白楽天の独り言, <http://www4.diary.ne.jp/user/430562/>)。

それから、ほんの一瞬の隙に、子供の手から離れたゴム風船が空へ飛び去る光景を見たことがあります。このゴム風船は上空8km位まで上昇すると言われていています。そこは極低温であるため、ゴム風船は凍結破壊して粉々になって地上へ落下します。ゴム風船は天然ゴムであるため、その破片を動物が食べても害はなく、ほとんどがそのまま排出されるそうです。また、海洋動物の死因としてゴム風船があげられたこともないと言われています(Balloon Story, <http://www.e-bap.com/history.htm>)。

最終的には、ゴム風船やその破片は微生物に分解されて、土に戻ります。このように、天然ゴムから生まれたゴム風船は自然にやさしく、かつ楽しい玩具ということになります。ただし、小さいお子さまが飲み込んだ場合には、のどに詰まる可能性がありますのでご注意ください。

(株)日産アーケ 加藤 淳)